



H A S H I K A M I

2011年(平成23年)

No.6

8月号(August)

はしかみ 議会だより



がんばろう階上
がんばろう東北

陸上記録会で、猛暑の中児童たちが記録を更新するために頑張っています。



- 02 6月定例会
- 03 ここが聞きたい
- 06 あの質問はどうなった
- 08 常陸宮ご夫妻が訪問

6月定例会 6月10日～15日

平成23年第4回定例会を6月10日開会し、6月15日閉会しました。

今回の議会では、報告3件、条例制定1件、条例一部改正5件、補正予算1件、その他2件など、計12件が上程されました。審議の結果、いずれも原案のとおり可決、承認されました。

主な可決議案

■報告

▽平成22年度階上町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

▽平成22年度階上町一般会計事故繰越し繰越計算書の報告

▽平成22年度階上町公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告

■条例制定

▽階上町わっせ交流センター

条例の制定

地域の活性化及び階上そば

のブランド化の推進並びに農産物の加工、地産地消の拡大を図る等

■条例の一部改正

▽階上町附属機関に関する条例の一部を改正する条例

交通安全対策協議会の会長及び副会長等の選任方法の改正

▽階上町税条例の一部を改正する条例

東日本大震災に対処するための地方税の一部改正に伴い、住民税に係る雑損控除の適用年度及び繰越し期間の延長ができること等

▽特別災害による被害者に対する町税減免の特別措置に関する条例の一部を改正する条例

特別災害により漁業に係る損失を受けた者について、農作物に係る損失を受けた者と同様の減免を行うこととする

▽災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例

東日本大震災に対処するた

めの特別の財政援助及び助成に関する法律が平成23年5月2日に施行されたことに伴い、災害援護資金の貸付けを受けられる期間及び償還期間の特例延長とすること等

▽階上町交通安全条例の一部を改正する条例

交通安全対策基本法に定める交通安全計画を策定し、総合的な交通安全対策の実施を図ること等

■補正予算

▽一般会計補正予算(第一号)

既定額59億3809万円に5623万5千円を追加し、59億9432万5千円とした。歳出の中には、商工費59万1千円、災害復旧費1億5134万1千円等を追加した。

東日本大震災による被害への対応分といたしまして、海産物簡易加工処理センター復旧に係る経費3320万9千円、階上漁業協同組合災害復旧事業費補助金は、今後の協議で変更も考えられますが1億1600万円等などが含まれます。

■その他

▽階上町固定資産評価審査委員会の委員に選任する者につき同意を求めることについて

固定資産評価審査委員



有谷 升氏

固定資産評価審査委員会は、固定資産課税に関して納税者から不服申し立てがあつた場合に、内容を審査決定する中立的な第三者機関として各市町村に設置されています。

▽人権擁護委員の候補者に推薦する者につき意見を求めることについて

人権擁護委員



久保 和子氏

人権擁護委員は、国民の基本的な人権が侵犯されることのないよう監視し、もし侵犯された場合その救済のための処

置をとり、あわせて人権思想の普及高陽に努めることを使命としている。

第5回

臨時会

平成23年第5回臨時会は7月5日に招集され、原案のとおり全会一致で可決されました。

▽階上町農業委員会委員の推薦について

階上町議会で、一般町民から推薦するのは初めてのことです。

階上町農業委員会において、初の女性の農業委員ということです。

農業委員



土橋 美智子氏

農業委員は、農業者の代表として農地の所有権移転、農地転用などの審議を行います。

一般 質問

ここが聞きたい

6月定例会では3人の議員が登壇し、町側の考えをただしました。要旨を掲載しています。



山田 恵治 議員

Q

去る3月11日に発生した東日本大震災によつて、東北の沿岸は壊滅的な被害を受けました。高い所で30mを超える津波によつて各地の町はのみ込まれてしまいました。

階上町においても大蛇地区を始め、追越、小舟渡などの海岸線の地域は、甚大な被害を受けました。

日本全国で様々なイベントや行事が中止され、自粛ムードに包まれました。階上町の2大イベントである、「臥牛山まつり」や「いちご煮祭り」も、早々、中止が発表されました。

この2大イベントは、階上町の祭りであるだけでなく、県南を代表する祭りであり、商工業者や町の各団体、そして、漁業関係者の多くが参加する歴史ある祭りです。階上町にとって大きな経済効果を

町を元気にする復興イベント開催について

町長／町を上げての復興イベントを検討して行きたい

もたらずイベントを中止することは、被災された人々の元気を無くすることのように思えてなりません。それに替わる復興のためのイベントを町が応援し、一緒になつて開催することで被災された方々が元気になることだと思います。イベントを中止するだけでは復興への意欲を欠いてしまします。

被災した、それぞれの市町村では様々な工夫を凝らしイベントの開催に扱ぎつけています。

階上町でも被災された人々が元気を取り戻すために復興イベントを開催するべきだと思います。

町はどのようにしていくのか伺います。

A

町長 階上町も、この津波により大蛇、追越、小舟渡の海岸地域を中心に甚大な被害を受け、住宅や店舗、漁船や漁港施設、浜小屋等の

流出。損壊によるガレキの惨状。浜に打ち上げられたウニの現状を目の当たりにしたとき、その被害のあまりの大きさに、祭り関係のイベントはとも実施できるような状況ではなく、当時とすれば「臥牛山まつり」、「いちご煮祭り」を早々に中止せざるを得ないという判断に至つたものでございます。

しかし、その後、復興に向けた、ガレキの除去や災害廃棄物の分別処理、被災施設の改修への取組み、特に被災された地域の皆様の団結した行動にも支えられ徐々に活気を取り戻しつつあると感じております。

漁港関連施設の復旧や漁業再開に向けて少しずつではありますが動き出しております。し、町民の皆様をはじめ県内外の方々、団体や企業など沢山のの方々からの義援金や寄付のご支援をいただいたことに

対する感謝の意味も含め、地域や漁業者の方々を元気づけたいと思います。

このことから、まずは、漁港内の環境整備や漁業の生産基盤機能の早期回復など被災地域の復旧、復興に最善を尽くしながら、階上町を元気づけるためにはどのような復興イベントがいいか、また、どのような取組みが可能なのか開催に向けて前向きに産業振興団体や関係各位のご意見、ご協力をいただきながら、町を上げての復興イベントの開催を早急に検討して参りたいと考えております。



臥牛山まつり [平成22年6月5日]



加藤 祐 議員

東日本震災復興の振興について

町長／具体策を協議し水産振興を図っていききたい

Q 階上町の沿岸の方々が津波により家屋の倒壊、船或いは漁具などの流失によって甚大な被害を受けました。行政がスピード感を持って早期復旧に努めた結果、ガレキの撤去が何処よりも早く進み、今は復旧が目に見えてきております。後はいかに早く復興できるかが課題と思われま

す。階上町の産業振興で、例年でございますと2大イベントが行われていますが、災害の大きさもありましてすぐさま実行委員会の会議が開かれ中止となり、春先の「臥牛山まつり」は見送られました。階上町最大のイベントでもありません、「いちご煮祭り」はこれからでございます。災害で素材が不足しているのは承知しておりますが、皆の創意と工夫と力を頂いて、一日も早い浜の元気を取り戻すため

にも、何らかの策を講じてでも祭りが実行出来そうです。提言するものでございます。又、被災された方々からの声もございます。次に、階上町の主力産業であります水産業を、先人たちが長い歴史の中で積み重ね築き上げ住民が生活をして参りましたが、普及が進み今は復興に進んでいます。その背中を町政があと押してあげれば必ずや生活基盤となる水産業が、活性化されていくのではないかと思います。これを機会に足腰の強い階上町の水産業を支えていくには、もうひと工夫必要ではないかと思っております。

方々は勿論のこと、階上町全体の力強い復興と活力ある産業振興のためにも、本来の「いちご煮祭り」から内容を変えた復興イベントの開催に向けて早急に検討して参りたいと思っております。観光を絡めた漁業の活性化という観点から、昨年も開催いたしました秋頃に「どんこ祭り」を計画しているところでもあります。

又、先般、階上町水産振興協議会に併せて震災復興会議を開催し、被災の状況、これまでの対応経過等を踏まえ、今後の課題等について意見交換をいたしました。その中で、当面は被災した漁業共同利用施設の早期復旧に努めながら、大量に流失したと思われるウニ・アワビの資源については、放流に頼るだけでなく、資源保護を考えた育てる漁業に力を入れるこ

とや、ホヤ・ナマコなどについても増殖しながら、水揚げ増に繋げていくこと、更には、磯で占められている魅力ある海岸を観光客に開放し、楽しんでもらえる環境を整備し、観光客を誘致して、浜の活性化を図ることや、未利用資源を有効利用した、特産品づくりの必要性などのほか、復旧した施設の有効利用方法の検討や漁船の回復計画の必要性等について意見が出されました。

これらを踏まえて、漁業施設の有効活用や漁港整備のあり方も見直ししながら、今後関係者と具体策を協議し、水産振興を図っていきたく考えております。

次に、今後の水産振興のあり方だろうと思いますが、これまで先程申し上げましたが、ワカメの共同採りとかアワビの採取とかをしている状況の中で磯資源の生育状況を伺いますと完全に残っていませんが、少し散見されていること、これが今後、どこまで再生し

ていくかという事を含めて資源の管理をしっかり考えていかなければいけないだろうと思っております。

そういった意味では地元にある県の栽培振興協会、栽培センターともっと連携を密にしながら町の栽培漁業のあり方をもう一度見直ししながら、磯漁業と、そして沖合漁業もありますから、その中で両方の資源を開発していく必要があるかと思っております。この機会に漁業関係者の皆さんと勉強しながら協力し、考えていきたいと思いますように思っております。

町長 先程答弁いたしました山田議員のご質問の内容と、同様の趣旨と思われま

すので、詳細につきましては省略させていただきますが、海岸地域や漁業者の

資源については、放流に頼るだけでなく、資源保護を考えた育てる漁業に力を入れるこ

とや、ホヤ・ナマコなどについても増殖しながら、水揚げ増に繋げていくこと、更には、磯で占められている魅力ある海岸を観光客に開放し、楽しんでもらえる環境を整備し、観光客を誘致して、浜の活性化を図ることや、未利用資源を有効利用した、特産品づくりの必要性などのほか、復旧した施設の有効利用方法の検討や漁船の回復計画の必要性等について意見が出されました。

これらを踏まえて、漁業施設の有効活用や漁港整備のあり方も見直ししながら、今後関係者と具体策を協議し、水産振興を図っていきたく考えております。



いちご煮祭りでのウニ販売 [平成22年7月24日]



松尾 國治 議員

Q この度の東日本大震災では各地で大変な被害がでました。

漁港や漁協関連の施設等については既に予算化もされ、復旧に向け着実に歩みだしているところではあります。特に漁港内に堆積しているガレキ、土砂等の撤去は早急に実施していただきたいと思えます。漁船を購入しても、八戸の港に係留せざるを得ないのが現状です。もう既に始めているようでございますが、いつまでに完了するのかをお示し下さい。又、防波堤その物には被害はありませんでしたが、それに付随する設備等に被害が出ていますので、それらの修復と更には漁業集落排水施設について、現在は仮復旧の状態ですが、完全に復旧するのはいつの予定なのか伺いたします。

次に、被災者支援について

東日本大震災の復興並びに被災者支援について

町長／被災者の生活再建のため支援していきたい

ですが、家屋が全壊し、借家又はアパートに仮住まいをされている方々が、階上町が災害救助法の適用にならなかつたという事で、支給された支援金も家賃に回り、限られた収入の中で将来に対し、大変な不安を抱えております。

被災者には今日までに、町からの見舞金、被災者生活再建支援制度に依る支援金、青森県と日本赤十字から配分された義援金の一次配分、町に寄せられた義援金の一次配分というようなものが申請によつて支給または、これから支給されるものだと思います。住宅を建設又は購入の場合で最高額が支給されても総額で約450万円少々になると思われませんが、これではとても不足です。又、リフォームをして既に再生活をスタートされている方々も資金の工面に苦慮されています。

今後、国からの義援金配分

が見込まれ、町としても税制面での優遇措置はありますが新たな町独自の支援というお考えはありますでしょうかお伺いいたします。

A 町長 まず、急がなければならぬものについて、国・県と協議を行い

「応急工事」により支障物撤去や浚渫工事を実施し、入港できるよう航路の確保を行い、一部危険区域につきましては梵天等により立入禁止区域を明示し、漁業者に周知しているところであります。

残りの港内泊地に沈んでいる消波ブロックやガレキ等の撤去については7月末を目途に、土砂等の浚渫につきましては11月を目途に、一日も早い復旧を目指しているところであります。

また、防波堤や護岸等の復旧工事につきましては、7月に予定されております国の災害査定において事業内容や復

旧事業費を決定して頂き、その後の工事発注となる予定であります。

次に、大蛇地区漁業集落排水施設の復旧についてであります。津波被災により終末処理施設及び中継マンホールポンプの汚水処理機能が停止したことにより、各家庭から排出される汚水がマンホールから溢れ漁場環境の悪化が予想されるため、早期に復旧する必要がありますことから国・県との協議により「応急工事」を進めて参ったところであります。

次に、家屋の全半壊世帯に対する町独自の支援について、今回の大津波による住宅被害の状況は、住宅の全壊が12世帯、大規模半壊が5世帯、半壊が1世帯で計18世帯の方々が被害を受け、その内7世帯の方々が、家屋の流失又は諸事情によりやむなく解体取り壊しとなっております。

義援金については、青森県の義援金配分委員会が開催され、階上町では、4月28日に18世帯の皆様がこの

義援金を支給させていただきました。

階上町災害義援金につきましては、6月3日に支給させていただきます。

そのほかに半壊以上の世帯に対する税金の免除や国保及び介護保険、後期高齢者医療等に係る給付費の一部負担金の軽減等、生活面を中心とした支援内容となっております。住宅被災にあわれた方々には、1日も早い生活再建を図っていただくために、今後についても個々の状況に合わせた相談や情報提供等について継続して参りたいと考えております。



大蛇地区漁業集落排水施設

一般質問

あの質問は どうなった

Q 平成23年6月定例会において質問された、町を元気にするための復興イベント開催について

A 町を上げての復興イベントの開催を早急に検討して参りたいと考えております。

早急に開催実現するため、6月29日に、がんばろう！はしかみ復興市 in 大蛇第1回実行委員会が開かれ、被災した海岸地域の早期回復並びに被災関係者の再起と活力ある水産業の振興発展のための「復興イベント」として7月31日に実施し、イベントの経費については、階上町からの補助金をもって充てました。

当日は、復興祈願祭や海産物・特産物の販売として、

- ・階上町特産のいちご煮ワンコイン（500円）
- ・魚介類網焼き体験
- ・ウニ、アワビ、ホヤ採り体験
- ・抽選コーナー

などがあり、大勢の来場者でにぎわいました。



震災に負けずがんばろう！はしかみ復興市 in 大蛇

Q 平成22年9月定例会において質問された、子宮頸がん予防ワクチン接種公費助成について

A 今後の国・県の動向を見ながら対象者の選定や助成について、実施に向けて検討したい。

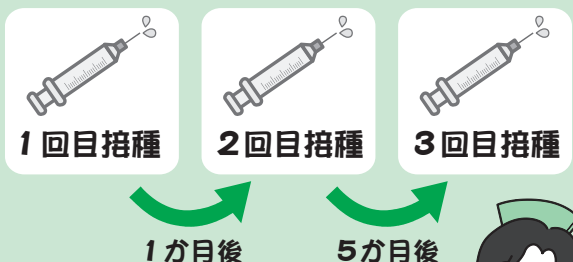
子宮頸がんは他のがんと異なり、原因が解明されています。その原因は、ほぼ100%がヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染。女性のがんとしては乳がんに次いで2番目に多いがんです。

ワクチンによる予防手段があるため「予防できる唯一のがん」と言われています。

階上町では、平成23年2月1日から中学1年生～高校1年生の女子を対象に予防接種費用を全額助成しています。

青森県内でも、全市町村が補助を実施しております。

接種スケジュール：半年間で3回接種



※ 20歳を過ぎたら、子宮頸がん検診を受ける事が大切です。



県町村議会 議長臨時総会

6月3日、青森県町村議会議長臨時総会が、県共同ビルにおいて開催され町議会議長が新監事に就任されました。

○監事
木村勝彦（階上町）
（任期は、平成23年6月1日から2年間）

議会事務局職員研修会

県町村議会議長会主催の議会事務局職員研修会が、5月26日県共同ビルにおいて、事務局長・職員約50人が出席して開かれました。町村議会議員共済会本部より、「議員年金制度の廃止について」6月1日廃止される議員年金制度の具体的な事務取扱等について説明が行われました。



町村議会議員研修

7月15日、青森市民ホールで開催された、県下町村議会議員研修会に議員13名が参加しました。

講師は東京大学名誉教授大森彌氏。

講演テーマ
「二元代表制と議会の価値」



県下町村議会議員研修会参加



議会活動

5月

- 16日 全国町村議会議長・副議長研修会（18日）
- 20日 町身体障害者福祉会定期総会
- 20日 町商工会通常総会
- 20日 町文化協会総会・文化功労賞受賞者合同祝賀式典

6月

- 1日 郡議会議長臨時総会
- 3日 県議会議長臨時総会
- 15日 町老人クラブゲートボール大会
- 15日 常陸宮ご夫妻被災地訪問
- 24日 町南部芸能協会総会
- 28日 町小学校陸上記録会
- 29日 復興イベント第1回打合せ会
- 29日 八戸地区連合防犯協会総会

7月

- 1日 名川さくらんぼ狩りセレモニー
- 1日 北奥羽開発促進協議会総会
- 2日 ふるさとはしかみ会「いちご者祭りin東京」

- 4日 八戸地域定住自立圏形成促進議員連盟役員会
- 6日 八戸・大野線整備促進連絡会総会
- 8日 八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会要望（岩手要望）
- 10日 町内駅伝競走大会
- 14日 八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会要望（青森要望）
- 15日 県下町村議会議員研修会
- 19日 八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会要望（仙台要望）
- 20日 八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会要望（東京要望）
- 21日 郡議会議長臨時総会・議長事務局長会議
- 21日 交通安全街頭広報活動
- 21日 がんばろう！はしかみ復興市in大蛇第2回実行委員会
- 21日 町消防団OB会総会
- 22日 町遺族会総会
- 22日 八戸・大野線整備促進連絡会要望
- 31日 がんばろう！はしかみ復興市in大蛇

東日本大震災の被災地訪問

平成23年6月15日、常陸宮ご夫婦が、被災地の大蛇漁港付近を訪問されました。議会においては、議長はじめ議員が参加いたしました。



大蛇漁港で被害状況などの説明を受けられる常陸宮ご夫婦

常陸宮ご夫婦が、被災された方々に、被害状況などをお聞きになり優しく語り掛けられました。中には、感激のあまり涙する方もおりました。



住民に震災当時のようすを熱心にお聞きになる常陸宮ご夫婦

公務ご多忙の中、常陸宮ご夫婦が階上町を訪問されるのは初めてということです。
「1日も早く、皆さんの町が、美しく安全で平和な町に戻るよう願っています」とお声を掛けられ、次の被災地に向かわれました。



震災で住宅を流された方に、励ましの言葉を掛けられた華子さま

編集後記

単独発行になりまして、今回で2回目の発行となります。皆様に親しまれる「議会だより」作りを心がけて参りますので、よろしくお願いたします。

議会傍聴者数

- ・平成23年第4回定例会 (6月)
 - 6月10日 (1人)
 - 6月14日 (6人)
 - 6月15日 (0人)
- ・平成23年第5回臨時会
 - 7月5日 (0人)

議会を傍聴しませんか

次回の定例会は9月上旬予定です

議会の傍聴は、受付簿に住所、氏名を記入するだけで、どなたでも傍聴できます。一度傍聴されてみてはいかがでしょうか。